

米国 政府機関閉鎖の企業景況感への影響は限定的

(13年10月ISM製造業景気指数)

発表日：2013年11月1日（金）

～在庫、入荷遅延の上昇で押し上げられており、ヘッドラインの数字ほど内容は良くない～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
12/12	50.2	49.7	52.6	51.9	43.0	53.7	48.5	55.5	51.5	51.5
13/01	53.1	53.3	53.6	54.0	51.0	53.6	47.5	56.5	50.5	50.0
13/02	54.2	57.8	57.6	52.6	51.5	51.4	55.0	61.5	53.5	54.0
13/03	51.3	51.4	52.2	54.2	49.5	49.4	51.0	54.5	56.0	54.0
13/04	50.7	52.3	53.5	50.2	46.5	50.9	53.0	50.0	54.0	55.0
13/05	49.0	48.8	48.6	50.1	49.0	48.7	48.0	49.5	51.0	54.5
13/06	50.9	51.9	53.4	48.7	50.5	50.0	46.5	52.5	54.5	56.0
13/07	55.4	58.3	65.0	54.4	47.0	52.1	45.0	49.0	53.5	57.5
13/08	55.7	63.2	62.4	53.3	47.5	52.3	46.5	54.0	55.5	58.0
13/09	56.2	60.5	62.6	55.4	50.0	52.6	49.5	56.5	52.0	55.0
13/10	56.4	60.6	60.8	53.2	52.5	54.7	51.5	55.5	57.0	55.5

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

ISM製造業景気指数は56.4と前月比0.2%ポイント上昇したが、在庫、入荷遅延が主導

13年10月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、56.4と市場予想の低下に反し前月比+0.2%ポイント上昇し、11年4月以来の高水準となった(市場予想中央値55.1、当社予想55.3)。政府機関閉鎖の影響は限定的なものにとどまり、自動車関連や住宅関連の需要拡大、海外需要回復の動き等を背景に、製造業部門の拡大ペース加速が示された。また、拡大した業種が増加しており、広がりを持った上昇となっている。

もともと、総合指数への構成項目別の寄与度をみると、生産(前月比▲0.4%ポイント)、雇用(前月比▲0.4%ポイント)がマイナス寄与となった一方、在庫(前月比+0.5%ポイント)のほか、入荷遅延(前月比+0.4%ポイント)が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+0.2%ポイント上昇した(新規受注、前月比+0.0%ポイント)。このように、重要な生産、雇用が鈍化するなかで、在庫、入荷遅延が加速したほか、新規受注・在庫比率が低下し水準を切り下げたことから、先行きの製造業部門の拡大ペース鈍化を示唆しており、ヘッドラインの数字が示すほど内容はよくない。

活動の拡大した業種は14業種と前月より3業種増加

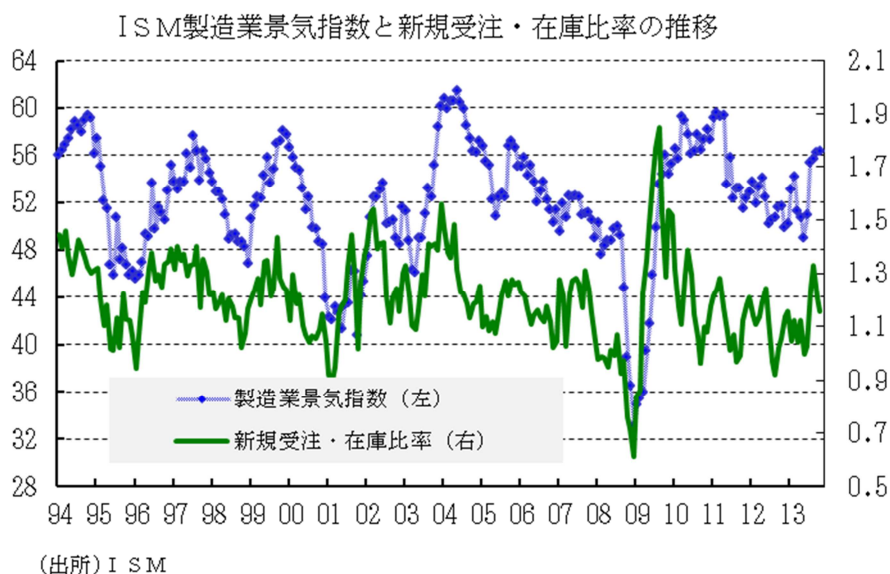
活動の拡大した業種数は、全18業種中14業種(前月11業種)と増加した。拡大した業種(拡大を続けた業種には下線)は、繊維、食品・飲料・タバコ、家具・同関連製品、印刷・同関連支援、電気装置・同機器・同部品、コンピューター・電子機器、輸送機械、石油・石炭、木材製品、プラスチック・ゴム、非鉄、一般機械、紙製品、加工金属。

一方、縮小した業種は、アパレル・皮革・同製品、一次金属、その他製造業、化学製品の4業種(前月6業種)に減少した。

(注) 下線は拡大を続けた業種

今後、ISM製造業景気指数は製造業部門の緩やかな拡大を示す水準で推移する見込み

今後に関しては、緊縮財政など財政政策に関連する先行き不透明感が残存するものの、米国企業が過剰な在庫や雇用を抱えていないほか、自動車、住宅関連主導で緩やかな成長を続ける米国内需要や拡大する世界経済などに下支えされ、ISM製造業景気指数は製造業部門の緩やかな拡大を示す水準で推移すると見込まれる。



輸出が緩やかに拡大することを示唆

輸出受注DIは、10月に57.0と前月比+5.0%ポイント上昇したうえ、拡大縮小の分岐点である50を11ヵ月連続で上回った。世界的な景気回復の動き等を背景に、輸出は緩やかなペースで拡大することを示唆している。

各国の米国向け輸出は増加基調を維持

輸入DIは、10月に55.5と前月比+0.5%ポイント上昇したことに加えて、拡大縮小の分岐点である50を上回り比較的高い水準を維持していることから、日本など先進国、BRICS等の新興国の米国向け輸出の拡大持続を示唆している。

雇用DIは10月の製造業雇用の増加ペース鈍化を示唆

雇用DIは、10月に53.2と前月比▲2.2%ポイント、3ヵ月移動平均でも低下しており、製造業部門雇用者数（3ヵ月移動平均）の増加ペース鈍化を示している。今後も、米国経済や政策の先行き不透明感、価格競争の激化によるコスト削減圧力を背景に、製造業部門での雇用の回復ペースは鈍い状況が続く見込み。

仕入価格DIは川中でのインフレ圧力は弱いまま

仕入価格DIは、エネルギーなどの価格低下によって、10月に55.5と前月比▲0.5%ポイント低下したうえ、水準も低いことから、川中でのインフレ圧力は弱いままである。